

少雨に対する農作物管理対策

徳島県立農林水産総合技術支援センター 経営推進課

徳島県内では、少雨傾向が続いています。

そこで、少雨に対する農作物管理対策を作成しましたので、参考にしてください。

野菜・花き

- ほ場が乾燥している場合は、うね間かん水やチューブかん水を行い、効率的な水利用に努める。（気温が低い時期は、温かい日中に行う）
- うね間かん水は、長時間うね間に水がたまると、根が傷む場合があるので注意する。
- 播種または定植作業は、土壌水分が適正な状態でうね立てし、発芽または初期生育に必要な水量の確保に努める。
- 乾燥を防ぐ対策として、うねの上にマルチや敷きわらをする。
- 施設等では、乾燥するとハダニ、アブラムシ等が発生しやすいため早期防除に努める。

果樹

- 水が確保される地域では、定期的にかん水する。
（気温が低い時期は、温かい日中に行う）
- 十分な水が確保できない場合は、細根の多い樹幹下にスポット（部分）かん水する。
（スポットかん水の目安：1 樹当たり10リットル以上×2～4カ所程度）
- 若木では、株元への敷きワラなどにより土壌乾燥を防止する。